

平成二十七年十月投句

【宇佐神宮（勅使祭）】

秋あかねスクランブルの交差点

初秋の旅それぞれの駅を発ち

寺多き三田を経廻り秋一日

勝利

勅使待つ宇佐神宮や秋天下

光子

枝折りて柿ずっしりと竿の先

寿命てふこともよぎりつ冬支度

名月を隠しきれざる雲ひとつ

鎮もれる闇の深さや宇佐の秋

提灯の灯落とせば秋の風

佳与子

提灯の列がミラーに曲る秋

真理子

土くれに落ちしむかごを見失ひ

神域の畦の匂ふや稲の秋

勅使橋外も夜の闇秋の川

行列に我も一灯秋祭

奉納の感応樂や秋祭

節子

秋水に口を禊いで祭使者

由紀子

提灯の列秋風に進み出し

金風や勅使渡りし橋渡る